



2022年3月期

決算説明補足資料

2022年5月13日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

決算概要

売上高：10,728百万円 営業利益：2,456百万円

事業概要

海外通信事業において飛躍的に提供容量などが増加したものの前期に比べ入金ベースにて売上を計上する案件が減少したことにより減収になったが、国内通信事業および医療・美容事業が好調に推移したため、全体では増収、増益を達成。

来期業績予想

売上高：12,000百万円 営業利益：2,920百万円

1 | 2022年3月期通期 決算概要

【2022年3月期 連結実績】

(単位：百万円)

	第4四半期（1月～3月）			通期累計				
	2021年3月期	2022年3月期	前期比	2021年3月期	2022年3月期	前期比	通期予想	達成率
売上高	2,207	4,302	2,095 (+94.9%)	9,515	10,728	1,212 (+12.7%)	11,100	96.7%
営業利益	195	1,032	836 (+426.8%)	1,921	2,456	534 (+27.8%)	2,400	102.3%
経常利益	616	1,417	801 (+130.1%)	2,187	2,897	709 (+32.4%)	2,400	120.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	381	933	552 (+144.7%)	1,487	1,888	401 (+27.0%)	1,650	114.4%

2022年3月期 実績分析

- 売上高：海外通信事業が飛躍的に提供容量などが増加したものの、入金ベースでの売上計上案件の関係から減収になったが、国内通信事業および医療・美容事業が好調に推移したことにより、前期比12.7%増加。
- 営業利益：国内通信事業および医療・美容事業が大きく増益となったことにより、前期比27.8%増加。
- 経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益：
営業利益の増加に加え、円安となったことから為替差益431百万円計上したことにより、それぞれ前期比32.4%、27.0%増加。

■ 海外通信事業

(単位：百万円)

	2021/3	2022/3	前年同期比
売上高	4,259	3,684	▲574 (▲13.5%)
営業利益	1,201	1,011	▲190 (▲15.8%)
利益率	28.2%	27.5%	—

国際通信回線C2C※の提供が拡大し、キャリアズキャリア※案件も12月（第4四半期）に計上され、提供容量などが飛躍的に増加したものの、前期に比べ入金ベースで売上を計上する案件が減少したことにより減収、減益となる。

■ フィリピン国内通信事業

(単位：百万円)

	2021/3	2022/3	前年同期比
売上高	837	1,784	947 (+113.2%)
営業利益	251	224	▲27 (▲10.9%)
利益率	30.1%	12.6%	—

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、在宅勤務が続き、法人向けインターネット接続サービスの新規獲得が低調に推移するも、先行投資負担などにより、減益。

■ 国内通信事業

	2021/3	2022/3	前年同期比
売上高	3,718	3,988	269 (+7.3%)
営業利益	410	819	408 (+99.4%)
利益率	11.0%	20.5%	-

AmeyoJ※及び秒課金サービス※を組み合わせたコールセンターソリューションサービスが引き続き好調に推移し、新型コロナウイルス感染症の影響により通信トラフィックも増加したことから、売上・利益ともに大きく増加。

■ 医療・美容事業

	2021/3	2022/3	前年同期比
売上高	623	1,244	620 (+99.5%)
営業利益	129	419	290 (+223.4%)
利益率	20.8%	33.8%	-

前期は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、新型コロナウイルス感染症蔓延の中、安全な運営を確立したことなどから、レーシック手術数が過去最高になり、大幅な増収増益となる。

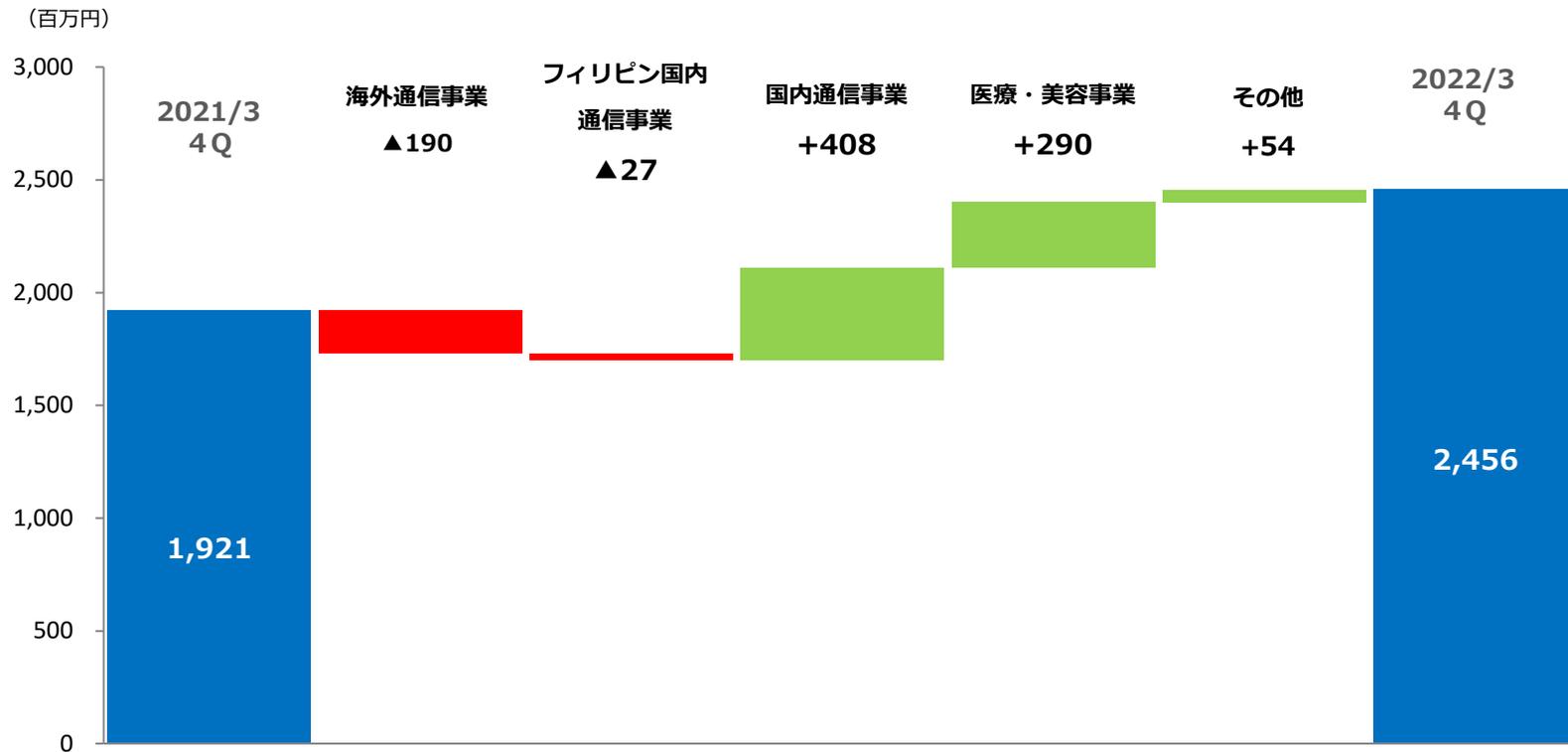
■ その他

(単位：百万円)

	2021/3	2022/3	前年同期比
売上高	77	26	▲50 (▲65.1%)
営業利益	▲73	▲19	54 (-)
利益率	-	-	-

2021年1月に人材関連事業を事業譲渡し、送金あっせんなどを在留フィリピン人向けに提供。

国内通信事業と医療・美容事業が利益拡大を牽引。



連結貸借対照表（サマリー）

（単位：百万円）

資産の部				負債・純資産の部			
	2021年3月期末	2022年3月期末	増減		2021年3月期末	2022年3月期末	増減
流動資産	7,665	12,023	4,357	流動負債	3,361	7,865	4,503
現金及び預金	3,625	5,778	2,152	買掛金	701	1,032	331
売掛金	1,091	2,069	977	借入金	518	1,845	1,327
リース投資資産	2,327	3,340	1,013	その他	2,141	4,986	2,845
その他	620	834	214	固定負債	1,645	1,418	▲ 226
				長期借入金	1,431	1,203	▲ 227
				その他	214	214	0
固定資産	4,096	6,397	2,300	負債合計	5,007	9,283	4,276
有形固定資産	2,510	3,776	1,265	純資産	6,754	9,136	2,381
無形固定資産	829	1,721	891	株主資本	5,332	7,131	1,798
投資その他資産	755	899	143	累積包括利益	▲ 26	178	205
				新株予約権	210	191	▲ 19
				非支配株主持分	1,238	1,635	397
資産合計	11,762	18,420	6,658	負債・純資産合計	11,762	18,420	6,658

2 | 2023年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期	
		通期予想	前年実績比
売上高	10,728	12,000	11.9%
営業利益	2,456	2,920	18.9%
経常利益	2,897	2,820	▲ 2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,888	1,700	▲ 10.0%

通期予想の概要

- 売上は120億円、営業利益は30億円見込むものの、第7回新株予約権に関する株式報酬費用約80百万円を計上するため、29億20百万円の計画。経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益が減益計画としているのは、前期に為替差益4億31百万円を計上したため。
- 海外通信事業では、使用权を取得した国際海底ケーブルの通信事業者やCATV事業者などへの拡販を計画。
- フィリピン国内通信事業では、営業体制を強化し、法人向けブロードバンドサービスなどの獲得増やフィリピン国内海底ケーブル建設などの事業基盤の強化を図る。
- 国内通信事業では、引き続きコールセンター向けサービスなどの顧客獲得による成長を計画。会社分割によりさらなる事業執行の確実化・スピード化を図る。
- 医療・美容事業では、新型コロナウイルス感染防止を徹底したクリニック運営によるレーシック手術の拡大を図る。

2023年3月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)

セグメント	2022年3月期実績	2023年3月期予想	2023年3月期予想	
			前年比	増減率
売上高	10,728	12,000	1,271	11.9%
海外通信事業	3,684	4,600	915	24.9%
フィリピン国内通信事業	1,784	1,620	▲164	▲9.2%
国内通信事業	3,988	4,080	91	2.3%
医療・美容事業	1,244	1,685	440	35.4%
その他	26	15	▲11	▲44.3%
営業利益	2,456	2,920	463	18.9%
海外通信事業	1,011	1,160	148	14.7%
フィリピン国内通信事業	224	315	90	40.4%
国内通信事業	819	950	130	16.0%
医療・美容事業	419	505	85	20.2%
その他	▲19	▲10	9	—
営業利益率	22.9%	24.3%	—	—
海外通信事業	27.5%	25.2%	—	—
フィリピン国内通信事業	12.6%	19.4%	—	—
国内通信事業	20.5%	23.3%	—	—
医療・美容事業	33.8%	30.0%	—	—
その他	—	—	—	—

■ 海外通信事業

IRU※契約により使用权を取得した国際海底ケーブルC2Cを利用した国際通信回線を、CATV事業者、通信事業者などに対して提供していく計画。販売形態は、IRUベースまたはリースとなり、通常リースは、利用期間にて分割して売上を計上。IRUでは、一括払または分割払にて販売し、それぞれ回収を基準として売上を計上。

今後もフィリピンのCATV事業者、通信事業者に積極的に提供し、事業の拡大を図っていく計画。

■ フィリピン国内通信事業

公共サービス法の改正に伴い、通信事業における外資規制が緩和されることから、フィリピン国内での事業体制の一層の強化を図る。

新型コロナウイルス感染症の蔓延による在宅勤務などの増加により法人向けブロードバンドサービスが伸び悩んでいるが、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、法人顧客の事業活動も正常化に動き出しており、この2年間でマニラ首都圏でのネットワークの拡張が図られ、マニラ首都圏全域でのサービス提供体制が整ったことから、営業体制などを強化し、法人顧客の獲得拡大を図る。また、個人向けブロードバンドサービスについても本格的に営業体制を構築し、獲得を強化していく。これにより、さらに強固なストックビジネスの確立を図っていく計画。

フィリピン国内海底ケーブルなどの建設計画に対応し、地方の中核都市などでの営業体制を強化し、顧客の増加を図る。

■ 国内通信事業

コールセンター事業者など向けの、自動架電や顧客管理を統合するシステム（AmeyoJ）と、格安通話料金サービス（秒課金フリーダイヤルサービス）をパッケージにしたトータルソリューションが引き続き好調に推移し、今期も堅調に推移するものと計画。

今後の事業の拡大を図るため、会社分割により株式会社アイ・ピー・エス・プロを設立予定。

■ 医療・美容事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全な運営を行うことにより、レーシック手術などが引き続き好調に推移する計画。

2023年の人間ドック・検診センターの開設に向け、開業準備を着実に実行し、さらなる事業拡大を図る計画。

会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

海外通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン国内通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

医療・美容事業：フィリピンでの医療・美容サービスの提供

グループ企業

主な連結子会社

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

ISMO Pte. Ltd.

➤ C2C回線

フィリピンとシンガポール・香港を結ぶ海底ケーブル (City-to-City Cable System)。

➤ キャリアズキャリア

通信回線の通信事業者向けの卸売業者。

➤ IRU

Indefeasible Right of Use。関係当事者の合意がない限り、破棄したり終了させることができない永続的な回線や設備の使用権。

➤ AmeyoJ

当社が日本国内の販売代理権を持つ、インドのDrishti-soft Solutions Pvt. Ltd.が開発したコールセンターシステム。

➤ 秒課金サービス

大手電気通信事業者が提供している着信課金サービス(フリーダイヤル)を大量に仕入れて、コールセンター事業者向けに秒単位で販売するサービス。

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331